女子祭礼用衣装〈サリー〉 A0301

ベナレス／インド

インドのサリーとクルター

साड़ी

参照資料

図録『ヒンドゥー世界の神と人』p.44～p.45、p.78 ～ p.82、p.96 ～ p.99

『国立民族学博物館展示ガイド』p.57

取扱注意：
これは着付けることはできません。
手袋をはめてお取り扱い下さい。

サリーは、一枚布を身にまとう点に特徴がある。長さ 5 メートル（6 ヤード）、幅 120 センチほどのものが標準サイズであるが、長さは 5 ～ 8 メートル、幅も 90 ～ 120 センチほどまではばがある。南アジア地域に広く分布しており、大きさだけでなく、その素材、織り、デザイン、着方なども地方や階層によって多種多様である。
このサリーは絹製で赤と金糸の手織りである。マンゴーの実をかたどったいわゆるペイズリー模様が美しく映えている。赤は結婚式のときに花嫁が好んで着る色であるが、好みによる違いや、地方・階層による差も大きい。

杉本先生からのひとこと

結婚式のときには、花嫁だけでなく、招待客も高価なサリーを着て集まります。女性たちは華やかさをきそいあい、さながらファッション・ショーのようです。

女子日常用衣装〈サリー〉 A0302

インド

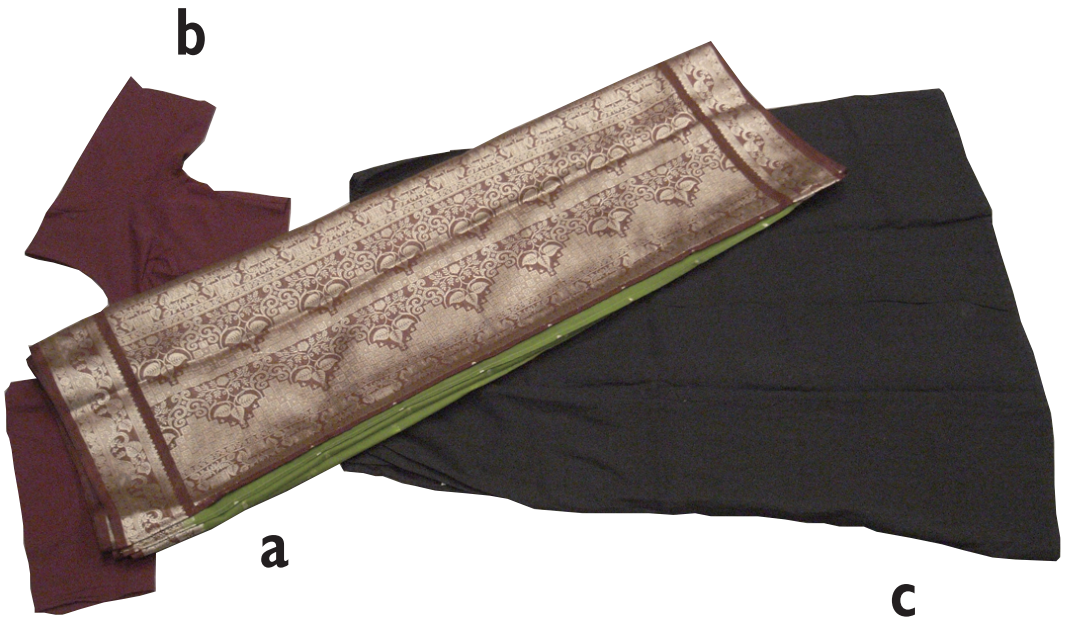
インドのサリーとクルター

参照資料

図録『ヒンドゥー世界の神と人』p.78 ～ p.82

『国立民族学博物館展示ガイド』p.57

着付方法：
ファイル「SARIS OF INDIA」参照



साड़ी

a साड़ी〈サーリー〉　b ब्लाउज़〈ブラーウズ〉　c पेटीकोट〈ペーティーコート〉

サリーはもちろん日常用にも用いられる。とくに学校の先生、オフィスの女性などはサリーすがたで仕事をしていることが多い。日常用には木綿、絹、それに化繊のものも好まれる。サリーの下にはブラウスとペチコートをつけるが、とくにブラウスはサリーの色目、柄などとマッチするようにたくさんの種類が用意されている。

杉本先生からのひとこと

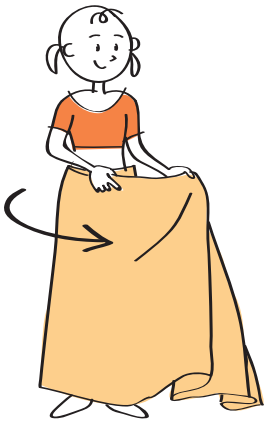
日常用のサリーはさすがにだんだん少なくなってきています。とくに若い女性たちは、ジーンズや洋装を好むようになり、じょじょにではありますが、さまがわりしています。

サリーの標準的な着付方法

インドのサリーとクルター

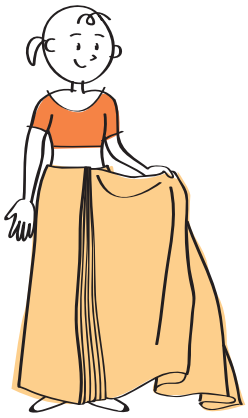
サリーの標準的な着付方法

1. はじめに、ペチコートとブラウスを着る。サリーの左端をペチコートにはさみ、左から後ろに巻く。



2. 腰を一周したところで

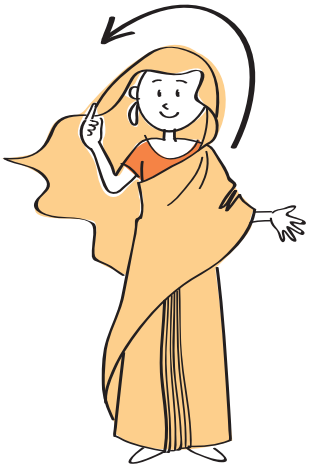
3. 肩にかける布を 1.8m くらい残して、体の正面に 12 ～ 14cm 幅のプリーツを 6 ～ 8 つとる。



4. プリーツを左向きにして端をペチコートにはさみ、丈を合わせる。

5. 残りの布を後ろをとおして右前にまわす。

6. 布をひっぱりながら、体に合わせて整え、左肩にかけ、後ろに自然にたらす。



7. 布を肩にかけるかわりに、そのまま頭をおおって右側へもっていき、後ろにたらす着方もある。

※　サリーは地方によって、カーストや職業によっても着方が異なる。

女子日常用衣装〈サリー〉 A0303

日本製

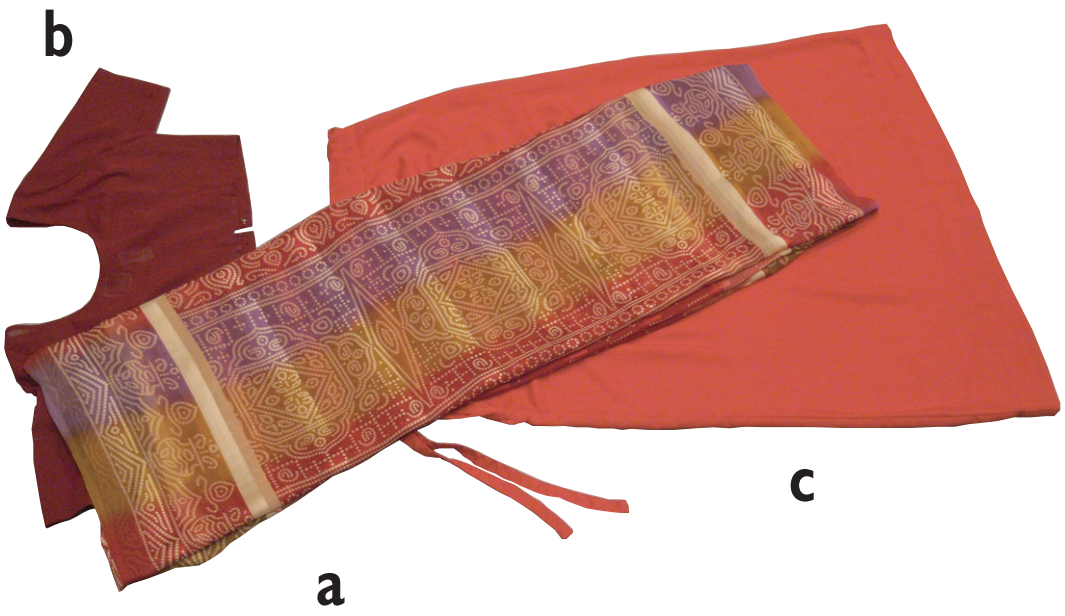
インドのサリーとクルター

参照資料

図録『ヒンドゥー世界の神と人』p.78 ～ p.82

『国立民族学博物館展示ガイド』p.57

着付方法：
ファイル「SARIS OF INDIA」参照



साड़ी

a साड़ी〈サーリー〉　b ब्लाउज़〈ブラーウズ〉　c पेटीकोट〈ペーティーコート〉

サリーはもちろん日常用にも用いられる。とくに学校の先生、オフィスの女性などはサリーすがたで仕事をしていることが多い。日常用には木綿、絹、それに化繊のものも好まれる。サリーの下にはブラウスとペチコートをつけるが、とくにブラウスはサリーの色目、柄などとマッチするようにたくさんの種類が用意されている。

杉本先生からのひとこと

日本にも、神戸、横浜などに、日本製やインド製のサリーを売る店があります。日本の合成繊維の技術は高く、手ざわりのよい上質なサリーがつくられています。

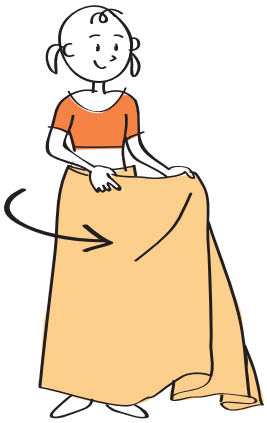
タイトル

A0303
ペナレス／インド

インドのサリーとクルター

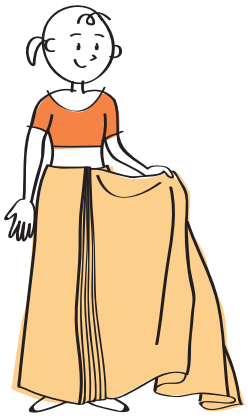
サリーの標準的な着付方法

1. はじめに、ペチコートとブラウスを着る。サリーの左端をペチコートにはさみ、左から後ろに巻く。



2. 腰を一周したところで

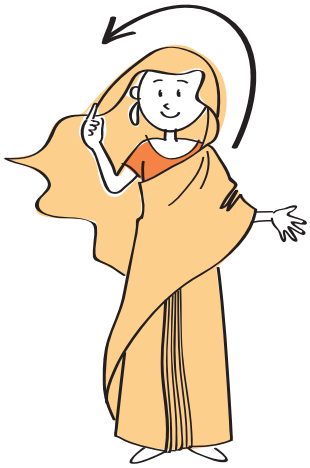
3. 肩にかける布を 1.8m くらい残して、体の正面に 12 ～ 14cm 幅のプリーツを 6 ～ 8 つとる。



4. プリーツを左向きにして端をペチコートにはさみ、丈を合わせる。

5. 残りの布を後ろをとおして右前にまわす。

6. 布をひっぱりながら、体に合わせて整え、左肩にかけ、後ろに自然にたらす。



7. 布を肩にかけるかわりに、そのまま頭をおおって右側へもっていき、後ろにたらす着方もある。

※　サリーは地方によって、カーストや職業によっても着方が異なる。

女子日常用衣装〈サリー〉 A0304

インド

インドのサリーとクルター

参照資料

図録『ヒンドゥー世界の神と人』p.78 ～ p.82

『国立民族学博物館展示ガイド』p.57

着付方法：
ファイル「SARIS OF INDIA」参照

साड़ी

a साड़ी〈サーリー〉　b ब्लाउज़〈ブラーウズ〉　c पेटीकोट〈ペーティーコート〉

最近はサリーのデザインや色使いなどもおおいに様変わりしてきている。このサリーは日本製のポリエステル・サリーで、インド風と日本風の花柄の混合である。こうした着物を思わせるデザインはインドでも人気がある。また、最近では NRI サリーといって、海外在住のインド人（NRI）の好みに合わせた、斬新な柄や色使いのサリーもみられるようになった。サリーも急速に国際化の波に洗われるようになってきている。

杉本先生からのひとこと

インドでは映画がたいへん人気があるので、ヒットした映画の主人公が着ていたサリーや、映画のタイトルやシーンをプリントしたサリーなども人気があります。

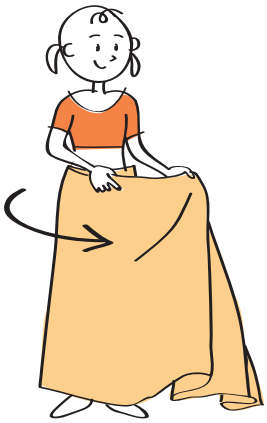
タイトル

A0304
ペナレス／インド

インドのサリーとクルター

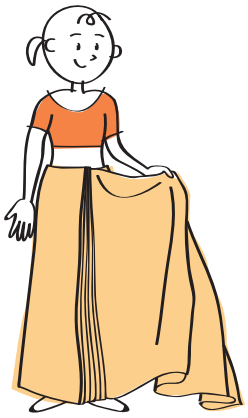
サリーの標準的な着付方法

1. はじめに、ペチコートとブラウスを着る。サリーの左端をペチコートにはさみ、左から後ろに巻く。



2. 腰を一周したところで

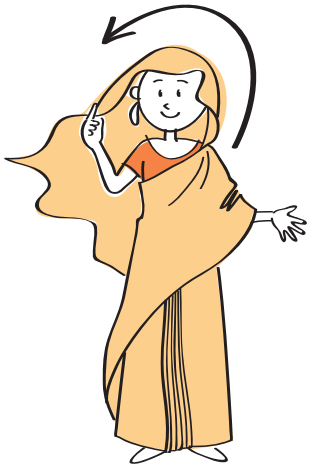
3. 肩にかける布を 1.8m くらい残して、体の正面に 12 ～ 14cm 幅のプリーツを 6 ～ 8 つとる。



4. プリーツを左向きにして端をペチコートにはさみ、丈を合わせる。

5. 残りの布を後ろをとおして右前にまわす。

6. 布をひっぱりながら、体に合わせて整え、左肩にかけ、後ろに自然にたらす。



7. 布を肩にかけるかわりに、そのまま頭をおおって右側へもっていき、後ろにたらす着方もある。

※　サリーは地方によって、カーストや職業によっても着方が異なる。

アクセサリー　〈バングル/チューリ〉 A0305
インド

インドのサリーとクルター

参照資料

図録『ヒンドゥー世界の神と人』p.44 ～ p.45、p.83 ～ p.86

बाँडूगूल　/　चुरी

インドの女性は多くの装飾品を身につけている。腕輪は二の腕だけでなく、ひじから上の部分にもつけている。装身具の素材には金銀などの貴金属と銅、青銅鉄、すずなどの金属が用いられている。宝石や貝、象牙、木、ガラス、ビーズ、プラスチック、木の実などもよくつかわれる。バングル（チューリ）は豊穣性と結びつくので、結婚式の花嫁は何十本ものバングルを身につける。

杉本先生からのひとこと

バングルには、子ども用のものもあり、小さいときからつかわれています。あまり大きいものは好まれず、手のひらをうまくたたんで直径の小さいバングルを器用に通します。

アクセサリー　〈ビンディ〉　A0306
インド

インドのサリーとクルター

参照資料

図録『ヒンドゥー世界の神と人』p.87 ～ p.89

बिंदी

女性の化粧として忘れてならないのものに、額につける赤い印、ビンディがある。もともと自分の属するヒンドゥー教徒の宗派をあらわす模様で、男性も女性も付ける宗教的な印であり、また悪霊から守護する役目も果たしている。だが近年では、裏に糊のついたプラスチック製のビンディが、若い女性を中心にファッションのひとつとして親しまれている。市場には赤色で丸型の普通のビンディだけでなく、さまざまな色や形のビンディが出回っており、サリーの色や柄にあわせて楽しまれる。

杉本先生からのひとこと

ビンディは子どもがつけてもかまいませんが、とくに結婚して夫が生きている女性は、かならずつけていなければなりません。

男子祭礼用衣装〈クルター・パジャマー〉 A0307

ニューデリー／インド

インドのサリーとクルター

参照資料

取扱注意：
ボタンは、取り外すことができます。なくさないように注意してください。

कुरता / पाजामा

a 上衣 कुरता〈クールター〉　b ズボン पाजामा〈パージャーマー〉

インドの男性用の衣装としては、クルターというゆったりしたシャツとパジャマーというパジャマ風のゆったりしたズボンがまずあげられる。パジャマーのかわりに腰巻き風のドーティーを合わせることもある。ただ、男性は、外では開襟シャツとズボン、家でリラックスするときに腰巻き風のルンギーを着ている人が多い。なお、パジャマーはペルシア語からきているが、これはいわゆるパジャマの語源ともなった。

杉本先生からのひとこと

暑いインドでは、インド製の木綿の衣服が気候に合っていて快適です。男性用の衣装はサリーのような地域などによる大きな違いはありません。

ボタン〈アランカリク バタン〉A0308
インド

インドのサリーとクルター

अलंकारिक बटन

参照資料

使用方法：
クルターのボタンが、取り外しできるので、そこに付け替えることができます。

取扱注意：
くさりが切れやすいので、特にていねいにお取り扱いください。

結婚式などで男性が上着につける飾り用のボタン。男性は結婚式のときには王子さまか貴公子かとみまがうばかりの気品のある衣装を身につける。そのとき上着にこうした飾りボタンをつけることがある。女性がサルワールなどの上着を着るときには、ドゥパタというショール風の布で前をおおうので、ボタンで飾ることはあまりない。

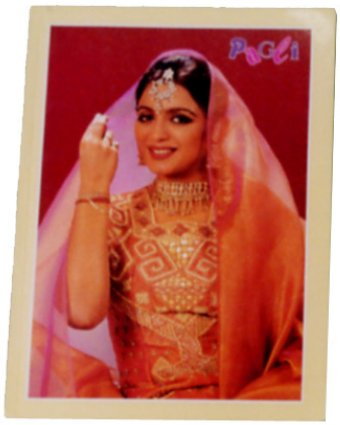
杉本先生からのひとこと

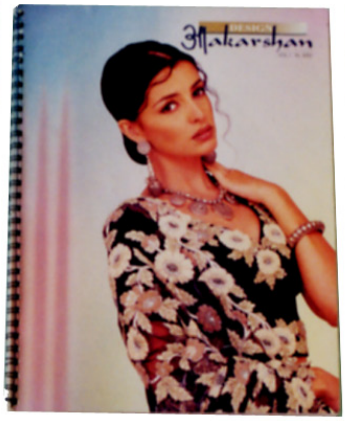
結婚式では、花婿が王子さまのようなすがたで、白い馬や象に乗ってやってくるところもあります。

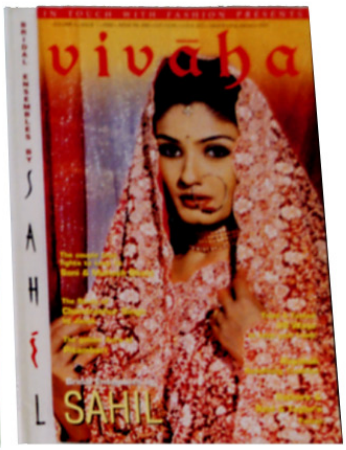
雑誌〈マーング ズィーン〉 A0309

インド

インドのサリーとクルター







माँगज़ीन

参照資料

取扱注意：
許可なくコピーしないでください。

インドのファッション誌。ファッションの中心地はボンベイ（ムンバイ）であり、雑誌もボンベイから出版されているものが多い。最近は、サルワール・カミーズ（パンジャービ・ドレス）がファッショナブルになり、流行の先端となっている。また、60 年代のサリー・ファッションがリバイバルしている。海外在住のインド人などの好みも反映して、ファッションは急速に変化している。

杉本先生からのひとこと

雑誌のモデルは女優が多いのですが、最近は逆に、ファッション・モデルがミス・コンテストに出て、そのあとで女優になる人も増えています。

インド映画女優ポスター〈ポースタル〉 A0310

インド

インドのサリーとクルター

पोस्टर

参照資料

取扱注意：
許可なくコピーしないでください。

日本でつくられた化繊のサリーの宣伝用につくられたポスター。インドの女性を起用し、雰囲気を盛り上げている。この女優はのちに国会議員になったジャヤ・プラダである。

杉本先生からのひとこと

日本でつくられたサリーはとてもきれいですが、ポスターのモデルは、やはりインド人でなければ雰囲気が出ません。体型、姿勢、どれをとっても、日本人にはなかなかまねができません。